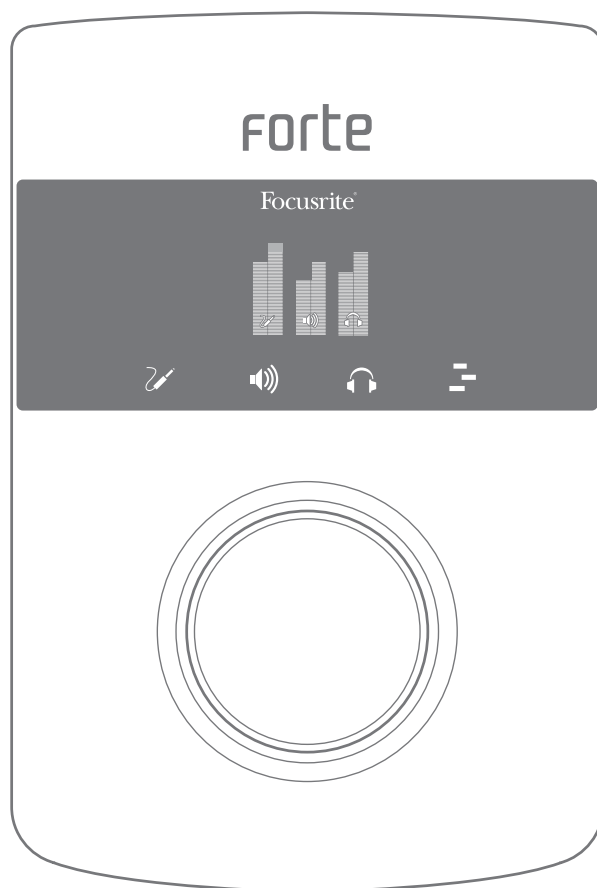



forte

ユーザーガイド



安全上のご注意

1. これらの指示を読んでください。
2. これらの指示を保管してください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての指示に従ってください。
5. 必ず乾いた布で清掃してください。
6. 熱を発生する放熱器、蓄熱器、ストーブなどの (アンプを含む) 熱源の近くに設置しないでください。
7. 分極または接地タイプのプラグの安全規定を守ってください。分極プラグには2枚のブレードがあり、一方が他方より幅広になっています。接地タイプのプラグには、2枚のブレードと3番目の接地用ピンが付いています。幅広のブレードまたは3番目のピンは、安全のために付いています。提供されたプラグがコンセントに合わない場合は、使用できないコンセントを電気技師に交換してもらう必要があります。
8. 特にプラグ、アウトレット、およびこれらが装置から出ている場所などで、電源コードを踏みつけたり、つまんだりしないよう保護してください。
9. Focusriteが指定するアタッチメント/アクセサリのみ使用してください。
10.  Focusriteが指定するまたは装置とともに販売されるカート、スタンド、三脚、ブラケット、またはテーブルのみと一緒に使用してください。カートを使用するときは、カートと装置を一緒に移動するときに転倒してけがをしないよう十分注意してください。
11. 雷雨時または長期間使用しない場合は、本装置のプラグを抜いてください。
12. サービスはすべて資格を有する保守要員までお問い合わせください。装置が何らかの原因で破損した場合は、保守およびサービスが必要になります。電源コードまたはプラグが破損した、液体がこぼれた、装置に物が落下した、装置が雨または湿気にさらされた、装置が正しく作動しない、装置を落としたなどが考えられます。
13. 本装置にろうそくなどの火気を近づけないでください。

警告:イヤフォンまたはヘッドフォンからの音圧レベルが高すぎると、聴力に悪影響をおよぼす場合があります。

警告:本装置はUSB2.0対応のポートに接続して使用してください。



注意:感電のリスクを減らすため、カバー (または背面) は取り外さないでください。製品内部にはユーザーが修理できる部分はありません。修理は資格を有する保守要員までお問い合わせください。



正三角形に稲妻形の矢印が入ったこの記号は、感電の恐れがある、製品の筐体内の絶縁されていない「危険な」電圧についてユーザーに警告するものです。



正三角形に感嘆符が入ったこの記号は、装置に付属の文書内の重要な操作およびメンテナンス (修理) 指示についてユーザーに警告するものです。

ENVIRONMENTAL DECLARATION

Compliance Information Statement: Declaration of Compliance procedure

Product Identification: Focusrite Forte
Responsible party: American Music and Sound
Address: 4325 Executive Drive
Suite 300
Southaven, MS 38672
Telephone: (800) 431-2609

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For USA

To the User:

- 1. Do not modify this unit!** This product, when installed as indicated in the instructions contained in this manual, meets FCC requirements. Modifications not expressly approved by Focusrite may void your authority, granted by the FCC, to use this product.
- 2. Important:** This product satisfies FCC regulations when high quality shielded cables are used to connect with other equipment. Failure to use high quality shielded cables or to follow the installation instructions within this manual may cause magnetic interference with appliances such as radios and televisions and void your FCC authorization to use this product in the USA.
- 3. Note:** This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:
 - Reorient or relocate the receiving antenna.
 - Increase the separation between the equipment and receiver.
 - Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
 - Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

For Canada

To the User:

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.

RoHS Notice

Focusrite Audio Engineering Limited has conformed where applicable, to the European Union's Directive 2002/95/EC on Restrictions of Hazardous Substances (RoHS) as well as the following sections of California law which refer to RoHS, namely sections 25214.10, 25214.10.2, and 58012, Health and Safety Code; Section 42475.2, Public Resources Code.

目次

安全上のご注意	2
ENVIRONMENTAL DECLARATION	3
目次	4
概要	5
はじめに	5
機能	5
パッケージ内容	5
システム要件	6
スタートアップ	7
ソフトウェアのインストール	7
Forteを接続する	8
入力用ブレイクアウトケーブル	8
電源	8
USB接続	9
DAWのオーディオ設定	9
ハードウェア機能	10
使用例	11
レコーディングインターフェースとしてのForte	11
ダイレクトモニタリングを使用する	12
Forteをスピーカーに接続する	13
Forte Controlを使用する	14
入力チャンネル	14
出力	15
デジタルモニターミキサー	15
設定	17
プリセットを保存・ロードする	18
ファクトリーデフォルトを復元する	18
ハードウェア操作	19
OLEDとモードアイコン	19
入力モードメニュー	22
メイン出力モードメニュー	23
ヘッドフォン出力モードメニュー	23
DAWモードメニュー	24
付録	25
Forte Control – ファクトリーデフォルト設定	25
パフォーマンス仕様	25
ハードウェアおよび電気仕様	27
トラブルシューティング	27

概要

はじめに

このたびは、Focusrite Forteをご購入いただきありがとうございます。Forteは、Focusrite高品質アナログプリアンプを搭載したプロ向けコンピューターオーディオインターフェースです。コンピューターにハイクオリティのオーディオをルーティングする、プロフェッショナルかつコンパクトなソリューションです。

本ユーザーガイドは、製品の機能と操作をしっかりと理解できるよう、本ハードウェアについて詳しく説明しています。Focusrite Forteと付属ソフトウェアのすべての機能をしっかりと理解するためにも、コンピューターレコーディングに不慣れな方とすでに経験を積んでいる方のどちらも、本ユーザーガイドに目を通すことをおすすめします。ユーザーガイドに必要な情報が見つからない場合、<http://www.focusrite.com/answerbase>をご覧ください。アンサーベースには、テクニカルサポートへ寄せられたお問い合わせをまとめて掲載しています(英語)。

機能

Focusrite Forteハードウェアインターフェースを使用すれば、マイクロフォン、楽器、ラインレベルのオーディオ信号を、Mac OSまたはWindowsを実行するコンピューターに接続することができます。物理入力の信号は、オーディオレコーディングソフトウェア/デジタルオーディオワークステーション(DAW)に最大分解能24ビット/192kHzでルーティングされます。そして、DAWのモニターまたはレコーディング出力は本ユニットの物理出力に送られます。

マイクや楽器など、物理入力に接続されているオーディオソースはDAWに録音され、その後、DAWから物理出力へとルーティングされます。Forteには出力チャンネルが4系統搭載されており、アンプとスピーカー、パワーモニター、ヘッドフォン、DJまたはその他の種類のミキサー、その他のオーディオ機器と接続できます。Forteの入力と出力はすべて録音再生用にご使用のDAWに直接ルーティングされますが、ニーズに合わせてDAW内でルーティングを変更することもできます。ダイレクトモニタリングにより、コンピューターのレイテンシーに影響されることなく再生をモニタリングすることができます。

DJでは、2系統の個別出力により、ヘッドフォン出力でヘッドフォンを使用してキューミックスをモニターしながら、同時にスピーカー出力でメインミックスをサウンドシステムに送ることができます。

パッケージ内容

Focusrite Forte本体に加え、次が同梱されています。

- 入力用ブレイクアウトケーブル
- USBケーブル
- 5V DC電源(メインアダプター)
- ソフトウェアダウンロードカード(以下のオンラインリソースへのアクセスに必要なコードを記載):
 - Forte USBドライバー(MacおよびWindows用)
 - ユーザーガイド(多言語版)
- 「スタートアップガイド」

システム要件

Mac OS

USB 2.0対応USBポートを搭載したApple Macintosh
OS:Mac OS X 10.7 (Lion) または10.8 (Mountain Lion)

Windows

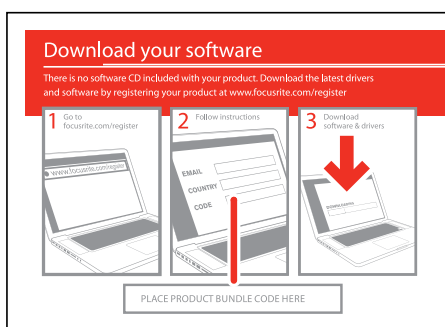
USB 2.0対応USBポートを搭載したWindows対応コンピューター
OS:Windows 7またはWindows 8 (32/64ビット)

スタートアップ

重要: Focusrite Forteをコンピューターに接続する前に、必ずインストーラーを実行してください。

ソフトウェアのインストール

Focusrite Forteに必要なソフトウェアはすべて、Focusriteウェブサイト<http://www.focusrite.com/register>からダウンロードできます。Forteに同梱されているソフトウェアアクティベーションカードに記載の認証コードは、ダウンロード時に入力する必要があります。この手順を経ることにより、最新バージョンのソフトウェアを確実に入手することができます。



- 1.ウェブブラウザで、<http://www.focusrite.com/register/>を開きます。
- 2.製品リストから[Forte]を選択します。
- 3.画面上の表示に従って、お客様情報と、ソフトウェアアクティベーションカードに記載のバンドルコードを該当フィールドに入力します。画面上の表示に従って、ダウンロードを開始します。コンピューターの適切なロケーションにファイルを保存します。
- 4.ダウンロードが完了したら、保存したファイルを開き、インストールを開始します。画面上の指示をよく読み、従ってください。
- 5.インストールが完了したら、コンピューターを再起動するメッセージが表示されます。
- 6.再起動後、付属のUSBケーブルを使用して、Forteをコンピューターに接続します。

Mac OSのみ:

コンピューターのデフォルトのオーディオ出力が、Forteが接続されているUSBポートへと自動的に切り替わります。これを確かめるには、**[システム環境設定] > [サウンド]** を開き、入力と出力の両方が**[Forte]**に設定されていることを確認します。Macでのより詳細なセットアップオプションについては、**[アプリケーション] > [ユーティリティ] > [Audio MIDI設定]** を開きます。

Windowsのみ:

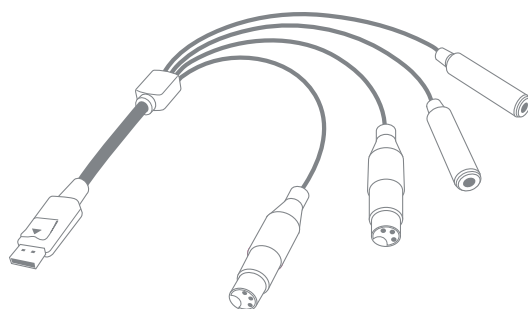
コンピューターのデフォルトのオーディオ出力が、Forteが接続されているUSBポートへと自動的に切り替わります。これを確かめるには、**[スタート] > [コントロールパネル] > [ハードウェアとサウンド] > [サウンド] > [オーディオ デバイスの管理]** を開き、**[再生]** と **[録音]** の既定のデバイスが**[Forte]** に設定されていることを確認します。

Forteを接続する

重要:Forteをコンピューターに接続する前に、上記の指示に従ってソフトウェアをインストールしてください。これにより、ハードウェアで確実に正しいドライバーが使用され、予期しない動作を防ぐことができます。

入力用ブレイクアウトケーブル

Forteに付属の入力用ブレイクアウトケーブルは、ユニット背面の[INPUTS]ポートに接続します。このブレイクアウトケーブルには、マイクロフォン入力用XLRメス端子x2とライン/インストゥルメント入力用3極TRSメス端子x3が搭載されています。



電源

Forteは、コンピューターへのUSB接続によるバス電源、または付属の5V DC 1A電源アダプターのいずれかを使用できます。



重要:48Vファンタム電源が必要な場合、付属の電源アダプターを使用する必要があります。ForteをUSBポートからのバス電源で駆動する場合、ファンタム電源は使用できません。



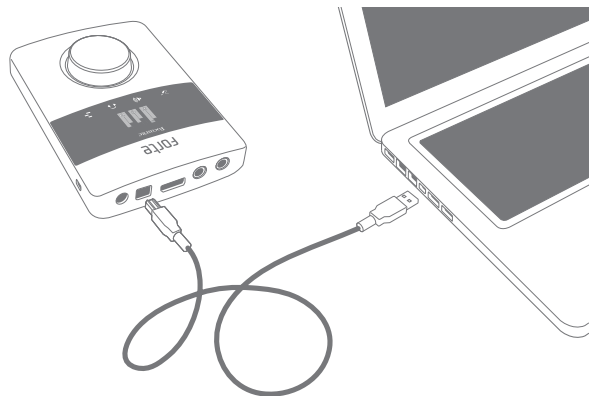
重要:ForteをUSBポートからのバス電源で駆動する場合、ユニットは「USB低パワーモード」になります。このモードでは、メイン出力とヘッドフォン出力の最大出力レベルが制限されます。より高い出力レベルが必要な場合（ヘッドフォンなど）、付属の5V DC電源アダプターをご使用ください。



重要:電源アダプターを使用する場合、必ず付属の電源アダプターを使用してください。他の電源アダプターを使用すると、ユニットに回復不能な損傷を与えることがあります。また、製品保証が無効となります。付属の電源アダプターを失くした場合、お近くの小売店にてFocusrite製品用電源アダプターをお買い求めください。

USB接続

Focusrite Forteには、USB 2.0ポートが1つあります(リアパネル)。ソフトウェアのインストールが完了したら、付属のUSBケーブルを使用して、Forteをコンピューターに接続します。(ForteはUSB 2.0デバイスです。USB接続には、USB 2.0対応のポートがコンピューターに搭載されていることが必要です。USB 1.0/1.1ポートでは正しく動作しません。)



DAWのオーディオ設定

Forteは、ASIOまたはWDM*対応のWindowsベースのDAW、および、Core Audio対応のMacベースのDAWに対応しています。ドライバーをインストールし、ハードウェアを接続したら、ご希望のDAWでForteを使用できます。

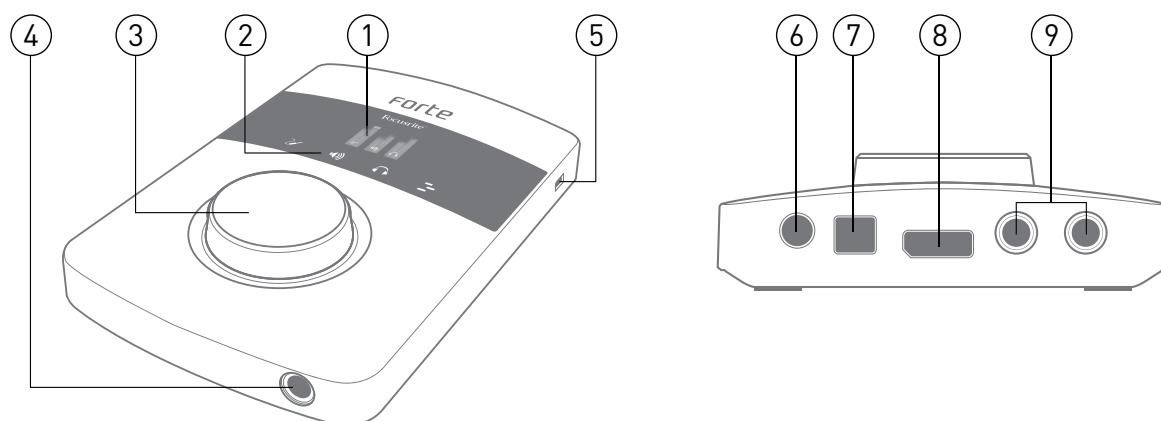
*WDMでは16ビットオーディオにのみ対応。

ご使用のDAWでは、ForteがデフォルトのI/Oデバイスとして自動的に選択されない場合があります。そのような場合は、ご使用のDAWの **オーディオ設定** ページで、**[Forte]** Macベースのシステムの場合) または **[Focusrite USB2.0 Audio Driver]** (PCベースのシステムの場合) を手動で選択する必要があります。ASIOまたはCore Audioドライバーの選択場所がわからない場合、DAWに付属の説明書(またはヘルプファイル)をご参照ください。

Forteがご使用のDAWのオーディオデバイスとして設定されると、入力1と2および出力1から4がDAWのオーディオI/O設定に表示されます。ご使用のDAWによっては、使用する前に特定の入力または出力を有効にする必要がある場合もあります。

*一般的な名前。DAWにより名称は異なります。

ハードウェア機能

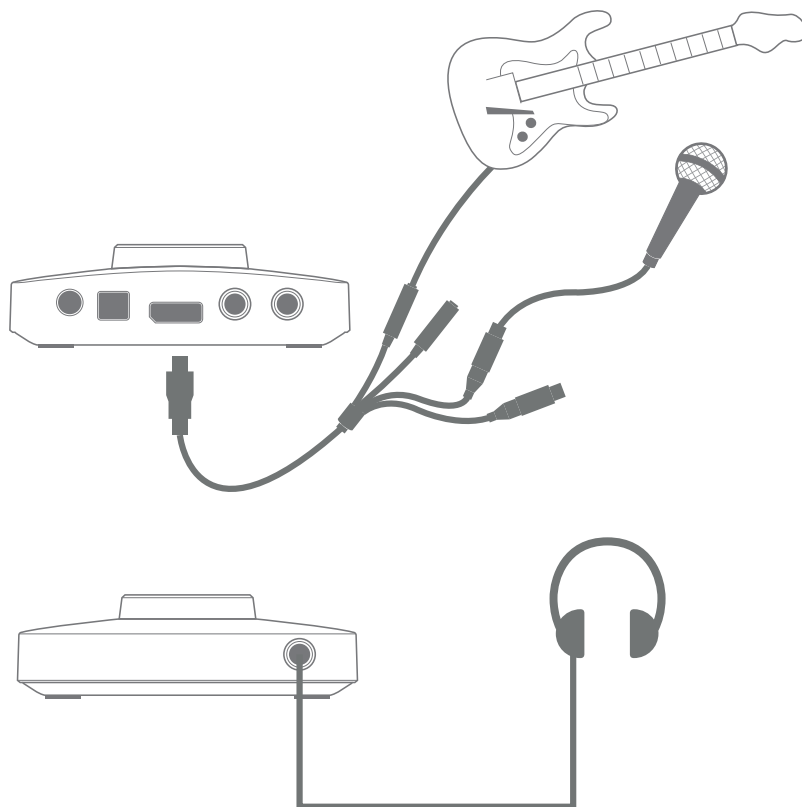


1. **OLEDスクリーン** - マルチ機能ディスプレイは、信号レベルメータリングとさまざまなメニューオプションを提供します。
2. **モードアイコン** - タッチセンシティブのアイコンでは、Forteの主な操作モードとメニューナビゲーションを選択できます。
3. **ロータリーコントロール** - メニューナビゲーションとパラメーターコントロールに使用します。メニューではプッシュ機能も使用します。ロータリーコントロールは、メイン入力のゲインと出力レベルのコントロールとしても使用します。
4. **ヘッドフォン端子** - ここにステレオヘッドフォンを接続します (1/4インチTRS端子)。
5. **セキュリティスロット** - Forteの盗難防止用です。
6. **DC電源イン** - 付属の5V PSU接続専用です。ファンタム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合、この端子を使用します。
7. **USBポート** - Forteをコンピューターに接続するためのUSB 2.0タイプBポートです。
8. **入力端子** - この端子に入力用ブレイクアウトケーブルを接続します。このブレイクアウトケーブルにはラッチがあります。コネクタが完全に接続されていることを確認してください。
9. **出力** - スタジオモニタリングシステム接続用のライン出力 (バランス) を提供する2 x 1/4インチTRS端子です。

使用例

Focusrite Forteは、さまざまなレコーディング/モニタリング使用に最適です。一般的な構成は下の図のとおりです。

レコーディングインターフェースとしてのForte



このセットアップは、MacまたはPC上のDAWソフトウェアを使用したレコーディングにおける最も一般的な構成を示しています。この場合、ギターを入力1、ボーカルを入力2でそれぞれDAWに録音し、ヘッドフォンまたはスピーカーでDAWからの再生をモニタリングします。

Forteには入力用ブレイクアウトケーブルが付属しており、このケーブルは、マルチピン入力コネクタを2つのXLRメス端子（マイク1とマイク2）と2つの1/4インチTRSメス端子（ライン/インストゥルメント1とライン/インストゥルメント2）に分岐します。2入力を一度に録音することができ、入力にはマイクロフォンx2、ライン/インストゥルメント入力x2、または各1つずつを選択できます。XLR入力は、マイクでの使用のみを想定しています。4入力はずべてバランスです。

付属のUSBケーブルを使用してForteをコンピューターに接続し、Forte Controlアプリケーションを起動します。



入力フェーダーの一番上のアイコンをクリックし、各チャンネルの入力タイプを選択します。

- **マイクロフォン** – 入力ソースにマイクロフォンを使用したい場合に選択します。コンデンサーマイクを使用している場合、**[48V]** ボタンをクリックしてファンタム電源をマイクに供給します。他の種類のマイクを使用している場合は、このボタンをオンにしないでください。コンデンサーマイクは、Forteが電源にUSBではなく外部PSUを使用している場合にのみ使用してください。
- **インストゥルメント** – (ギターなどの) 楽器を接続したい場合に選択します。
- **ライン** – シンセモジュールなど、ラインレベルのソースを接続している場合に選択します。

ダイレクトモニタリングを使用する

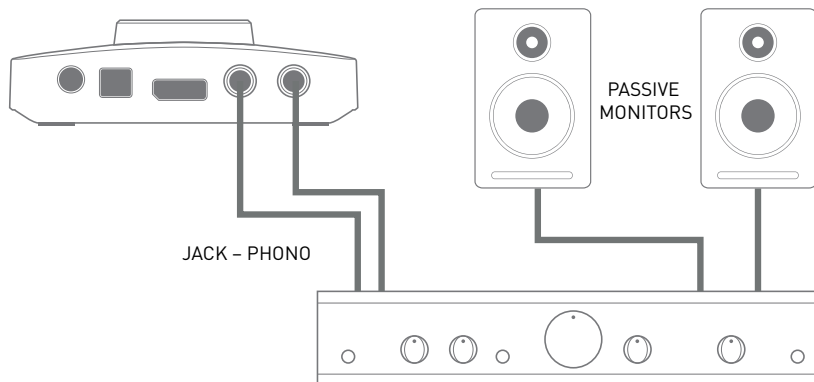
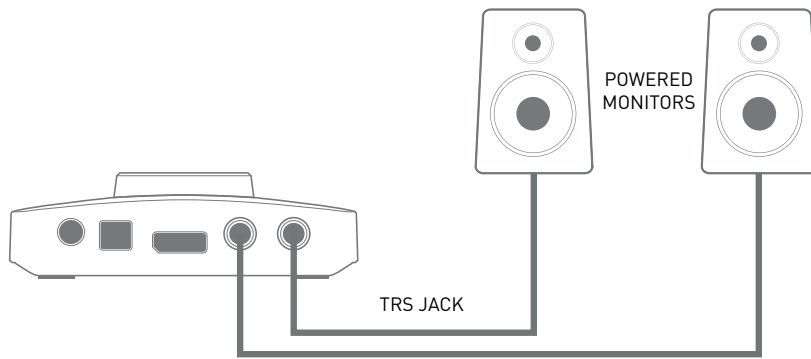
デジタルオーディオシステムに関連して、「レイテンシー」という言葉をよく耳にするかと思います。上記のようなシンプルなDAWレコーディングの場合、レイテンシーとは、入力信号がコンピューターとオーディオソフトウェアを通過するのにかかる時間のことを指します。レイテンシーは、入力信号をモニタリングしながら録音したいパフォーマンスにとって問題となります。

Forteではこの問題を解決する「ダイレクトモニタリング」が採用されています。Forteの入力には2つのモニタリングミキサー内に独自のチャンネルがあり、Forte Controlは入力信号を直接ヘッドフォンとメインモニター出力に送ります。これにより、DAWの再生と合わせて、ニアゼロレイテンシー（リアルタイム）で自分の演奏をモニタリングできます。この設定により、コンピューターへの入力信号に影響が生じることはありません。詳しくは、[14ページの「Forte Controlを使用する」](#)をご参照ください。

Forteをスピーカーに接続する

Forteにはステレオ出力が2つあり、1つはヘッドフォン用として前面に、もう1つはスタジオモニタリングシステムやミキシング・コンソールとの接続用に背面にあります。どちらか1つまたは両方を使用し、入力の個別ミックスとそれぞれのDAW出力を抽出できます。ミックスは、Forte Controlで定義されます。

Forteの前面の出力は、モニタリングスピーカーの接続に使用できます。可変レベル、電子バランス入力の1/4インチ3極TRS端子です。アクティブモニター（最新型のスタジオモニタースピーカーなど）には、内蔵アンプとボリュームコントロールが搭載されており、直接接続できる場合があります。パッシブスピーカーには別途ステレオアンプが必要となります。この場合、出力はアンプの入力に接続します。



一般的なコンシューマー向け（ハイファイ）アンプや小型のパワードモニターにはアンバランス入力搭載されており、RCAフォノ端子またはコンピューターへの直接接続用の3.5mm3極メス端子が使用されます。どちらの場合も、どちらか一方に1/4インチ2極TS端子の付いた適切な接続ケーブルを使用します。

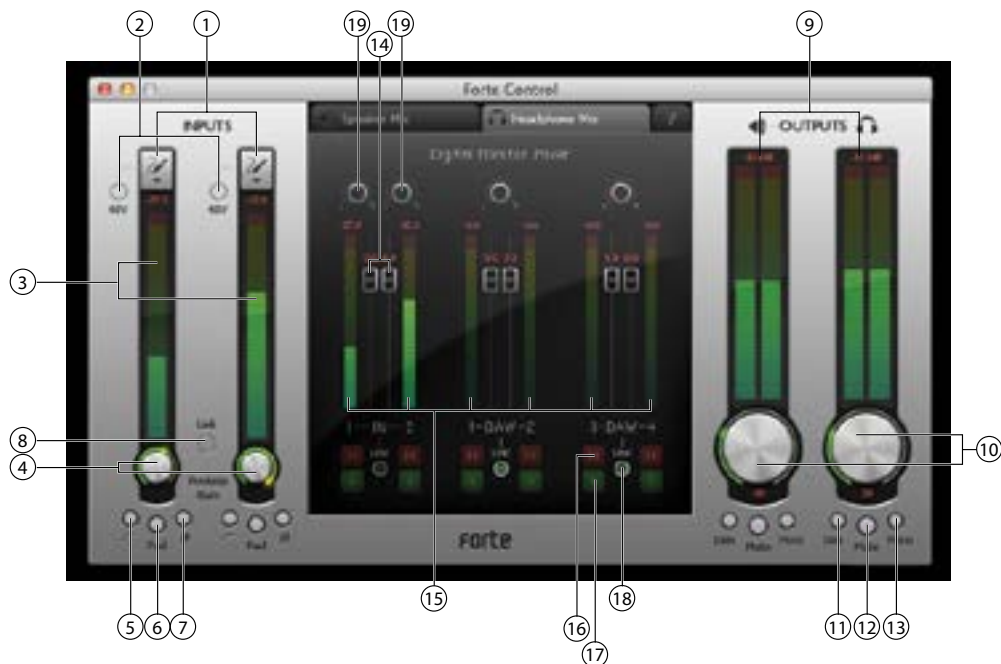
プロ仕様のパワーアンプのほとんどはバランス入力を生成します（3ピンXLRまたは1/4インチ3極TRS端子）。適切なスクリーンケーブルを使用してForteのメイン出力に接続します。

アンプ（アクティブスピーカーまたはセパレート/ハイファイ）は、指定のボリュームレベルをもたらすよう設定されています。設定が完了すれば、Forteのノブを使用してボリュームレベルをコントロールできます。

注意:スピーカーとマイクがどちらも有効な場合、オーディオフィードバック・ループが生じる危険があります。録音中はスピーカーのモニタリングをオフにする（または電源を切る）こと、またオーバーダビング中はヘッドフォンを使用することをおすすめします。

Forte Controlを使用する

Forte Controlは、Forteの機能すべてを操作性に優れたシングルウィンドウでコントロールできるアプリケーションです。



入力チャンネル

1. **入力選択** – 2入力のそれぞれに対して、マイク、インストゥルメント、またはラインの各設定を選択します。
2. **48V** – マイク入力 (XLR) のみに48Vファンタム電源を適用します。Forteが電源に外部PSUを使用していることが条件となります。
3. **信号レベル** – 各入力チャンネルには棒グラフメーターがあり、相対的な信号レベルが表示されます。メーター最上部には、瞬間的なピークレベルを示す数値が表示されます。棒グラフのピークレベルに値する部分は1秒間にわたって点灯します (点灯時間はユーザー定義可能です。詳しくは17ページの「設定」をご参照ください)。メーターの最上部は赤色で表示されます。信号レベルがこの部分に到達しないよう気をつけましょう。スケールの一番上は0dBFSに相当し、デジタルクリッピングが生じると、棒グラフの一部が赤色に点灯し、「OVR」の文字が1秒間表示されます (点灯時間はユーザー定義可能です。詳しくは17ページの「設定」をご参照ください)。
4. **入力ゲイン** – マウスでロータリーコントロールを操作します。このパラメーターは、Forteハードウェアコントローラーからもコントロールできます。
5. **ハイパスフィルター** [✓] – 切り替え可能なハイパスフィルターです。組み込まれると、低域応答が75 Hz未満に下がり、12dB/オクターブのスロープとなります。このパラメーターは、Forteハードウェアコントローラーからもコントロールできます。
6. **パッド** – 10dBパッドは、各チャンネルにインサートしてマイク入力の感度を下げることができます。このパラメーターは、Forteハードウェアコントローラーからもコントロールできます。
7. **位相反転** [☐] – すべての入力ソースで使用できます。入力チャンネル信号の位相を反転させます。このパラメーターは、Forteハードウェアコントローラーからもコントロールできます。

8. **チャンネルリンク** - 入力チャンネルはリンクさせることができます。これにより、たとえばステレオソースの操作が簡単になります。ゲイン、位相反転、ハイパスフィルター、およびパッドの各機能は共通となります。チャンネルリンクが選択されている際の2チャンネル間のゲインのオフセットは維持されます。このパラメーターは、Forteハードウェアコントローラーからもコントロールできます。

出力



2つのステレオ出力チャンネルの機能は同一です。左はリアパネルのメイン出力を、右はフロントパネルのヘッドフォン出力をそれぞれコントロールします。

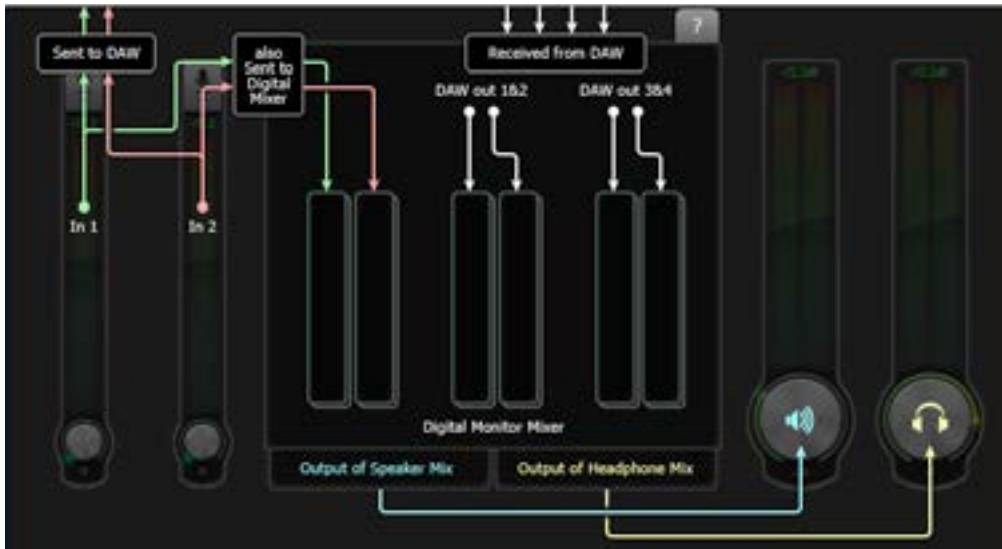
注: ForteをUSBポートからのバス電源で駆動する場合、ユニットは「USB低パワーモード」になります。このモードでは、メイン出力とヘッドフォン出力の最大出力レベルが制限されます。より高い出力レベルが必要な場合（ヘッドフォンなど）、付属の5V DC電源アダプターをご使用ください。

9. **信号レベル** - 出力メーターは、入力信号メータリングに使用されるものと同一です。
10. **出力レベル** - マウスで調整するロータリーコントロールです。コントロールをダブルクリックし、固定出力レベルを-30dBFSに設定します。このパラメーターは、Forteハードウェアコントローラーからもコントロールできます。電源にUSBバスパワーを使用している場合、最大出力レベルは-18dBFSに制限されます。
11. **[Dim] ボタン** - 出力レベルを12dB単位で下げます。このパラメーターは、Forteハードウェアコントローラーからもコントロールできます。
12. **[Mute] ボタン** - 出力チャンネルをミュートします。このパラメーターは、Forteハードウェアコントローラーからもコントロールできます。
13. **[Mono] ボタン** - 各出力をL+Rのモノ合計として再設定できます。このパラメーターは、Forteハードウェアコントローラーからもコントロールできます。

デジタルモニターミキサー

Forte Controlの[Speaker Mix]と[Headphone Mix]セクションの機能は同一です。最上部のタブを使用して選択します。各ミキサーには6つの入力チャンネルがあり、2つは入力チャンネル、4つはDAW出力のチャンネルです。6つのチャンネルは3つのペアとなっています。各ペアの機能は同一ですので、下にはそのうち1つのみについて説明しています。これらのミキサーは、出力に送られるオーディオミックスをコントロールします。録音用にDAWに送られる信号には影響しません。

デジタルモニターミキサー最上部の  タブをクリックすると、ブロック図が開き、ソースおよびデステイネーションとForteとの間のルーティングと、GUIコントロールのセクションを説明する図が表示されます。 タブをもう1回クリックすると、メインのGUI画面に戻ります。





14. **チャンネルフェーダー** - 出力ミックス内の関連する信号(入力またはDAW出力ペア)の量をコントロールします。フェーダーをダブルクリックすると0dBに設定されます。
15. **信号レベル** - モニターミキサーチャンネルメーターは、入力信号メータリングに使用されるものと同一です。
16. **ミュート** - 6入力には赤色の[M]ボタンで個別にミュートに切り替えることができます。
17. **ソロ** - 6入力には緑色の[S]ボタンで個別にソロに切り替えることができます。チャンネルをソロにすると他のすべてのチャンネルがミュートし、選択されているチャンネルだけが聞こえます。必要に応じて、2つ以上のチャンネルをソロにすることができます。ミキサーチャンネルをソロにしても、DAWに送られる入力信号は停止しません。
18. **ステレオリンク** - 各ペアの2つのチャンネルをステレオ操作にリンクすることができます。ゲイン、ミュート、ソロの機能は共通となります。
19. **パンコントロール** - 6チャンネルのいずれか内の信号をステレオイメージ内の任意の位置に配置することができます。ステレオリンクがオンの場合、パンコントロールはステレオバランスコントロールになります。

設定

File > Settings をクリックすると **Settings** ウィンドウが開きます。ここでは、グローバルパラメーターを調整できます。次のパラメーターがあります。

- **メータークリップホールド** - 信号レベルがデジタルクリッピングに達した後、棒グラフの上(赤)部分が点灯する時間を設定します。メーター最上部に表示される[OVR]は、このパラメーターによっても影響されます。ファクトリーデフォルト値は1秒です。
- **メーターピークホールド** - ピークレベルを示す、メーター最上部部分の点灯時間を設定します。ファクトリーデフォルト値は1秒です。
- **サンプル・レート** - オーディオサンプリングレートを44.1、48、88.2、96、176.4、または192kHzから選択します。ファクトリーデフォルト値は48kHzです。
- **バッファーサイズ** (Windowsのみ) - USBリンクを介したForteとご使用のDAW間のオーディオデータ転送には、コンピュータのプロセッサ速度と負荷に応じて遅延が生じます。そのため、データが失われないう、データはForte内でバッファーされます。オーディオのグリッチノイズが聞こえるということは、バッファーサイズが小さすぎることを示しています。バッファーサイズは、不要なオーディオノイズが生じない程度に最も低い値に設定する必要があります。値は、0から20msの範囲で調整できます。ファクトリーデフォルト値は10msです。Macのバッファーサイズは、DAW内から操作できます。

プリセットを保存・ロードする

必要に応じて、すべてのミキサーパラメーターをプリセットとして保存し、後で再ロードすることができます。プリセットは、いくつでも保存できます。**File > Save As...** をクリックして **Save As** (Windows) または **Save a snapshot file** (Mac) ダイアログボックスを開きます。適切なロケーションに移動し、通常の操作で保存します。プリセットファイルには、***.forte** のファイル拡張子が付きます。

保存したプリセットのロードは、この逆の手順で行います。**File > Open** をクリックし、ファイルを選択して **Open** をクリックします。

ファクトリーデフォルトを復元する

File > Restore Factory Defaults をクリックすると、すべてのForte Controlパラメーターがデフォルト値にリセットされます。これにより、入力レベルが最小に、出力レベルが-30dBFSに、すべてのデジタルモニターミキサーレベルがユニティゲインにそれぞれ設定されます。ファクトリーデフォルト設定の一覧については、25ページの「Appendix」をご参照ください。

ハードウェア操作

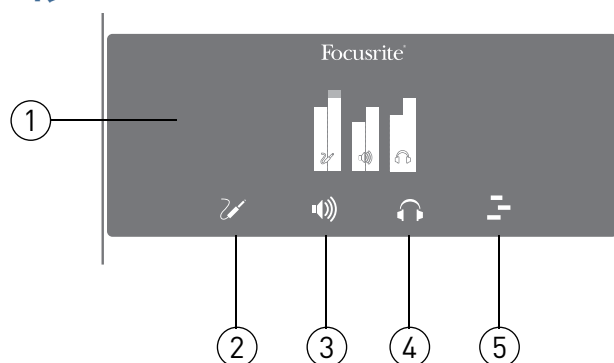
Forteの主な操作機能の多くは、ハードウェアコントローラーからもコントロールできます。ロータリーコントロール、カラーOLEDディスプレイ、タッチアイコンからなるシンプルなインターフェースを使用すれば、画面上のForte Controlアプリケーションにアクセスする必要がありません。

OLEDのデフォルト表示は棒グラフで、左が入力チャンネル、中央がメイン出力、右がヘッドフォン出力を示しています。




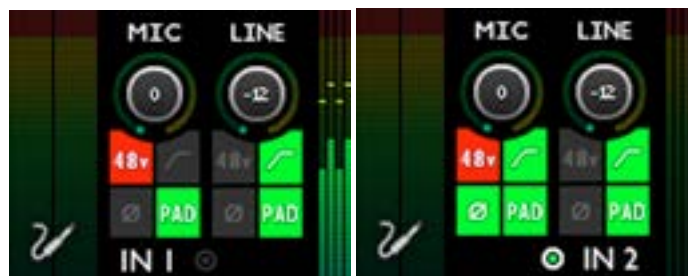
タッチアイコンで3つのメインモード(入力、メイン、ヘッドフォン)のいずれかを選択すると、棒グラフ表示が一時的に縮小され、追加情報がテキストで表示されます。縮小表示では、2つの幅広の棒グラフに選択されているモードに関連する信号レベルが表示されます。たとえば、メイン出力モードを選択すると、入力とヘッドフォン出力はその後表示されますが、ディスプレイの端に薄い棒グラフとして表示されます。

OLEDとモードアイコン



1. **OLED** – カラーのマルチ機能ディスプレイで、ユーザーの操作に応じてメーターや情報テキストを表示します。


2. **入力モード**  - 入力機能をコントロールできます。短くタッチして、入力1のゲインをロータリーコントロールで調整できます。また、もう1回短くタッチすると、コントロール対象を入力2に切り替えることができます。(入力1と2は、短いタッチを繰り返して切り替えることができます。)長めにタッチするとメニューが開き、入力に関連する機能を選択できます(22ページの「入力モードメニュー」参照)。最後に操作したのが入力1のゲインの場合入力1のオプションが、また最後に操作したのが入力2のゲインの場合入力2のオプションが表示されます。



入力コントロール


入力用ブレイクアウトケーブルがFortelに接続されていない場合、エラーメッセージが表示されます。



3. **メイン出力モード**  - メイン出力機能をコントロールできます。短くタッチして、メイン出力レベルをロータリーコントロールで調整できます。長めにタッチするとメニューが開き、出力に関連する機能を選択できます(23ページの「メイン出力モードメニュー」参照)。




メイン出力コントロール

4. **ヘッドフォンモード**  - ヘッドフォン機能をコントロールできます。短くタッチして、ヘッドフォンのボリュームをロータリーコントロールで調整できます。長めにタッチするとメニューが開き、ヘッドフォンに関連する機能を選択できます。



ヘッドフォンコントロール

5. **DAWモード**  - **Forte**コントローラーから**DAW**にコマンドを送信し、特定の機能をコントロールできます。デフォルトのコマンドは再生と水平ズームですが、これはユーザー定義が可能です。このモードを機能させるには、**DAW**でキーボードショートカットが有効である必要があります。詳しくは、4ページの「**DAWモードメニュー 24**」をご参照ください。



入力モードメニュー

入力ごとに7つのメニューオプションがあります。ロータリーコントロールを使用して指定のオプションをハイライト表示させ、ロータリーコントロールを押して状態を変更します（[TYPE]以外のオプションはすべて機能のオン/オフを切り替えるタイプのオプションです）。

TYPE	Mic Line Inst	HPF	Off On
+48V		PHASE REV	Off On
HPF	Off On	PAD	Off On
PHASE REV	Off On	LINK	Off On
PAD	Off On	CLEAR METER & EXIT	
IN 1		IN 1	

入力モードメニュー

TYPE – 現在選択されている入力(1または2)のソースを [Mic] (マイク)、[Line] (ライン)、[Inst] (インストゥルメント) から選択します。

48V – Forte Control画面上の [48V] ボタンの機能を再現します。ForteがUSBバスパワーで駆動している場合、このオプションは灰色表示になります。ファンタム電源を使用するには、外部PSUが必要となります。

HPF – Forte Control画面上の  ボタンの機能を再現します。

PHASE REV – Forte Control画面上の  ボタンの機能を再現します。

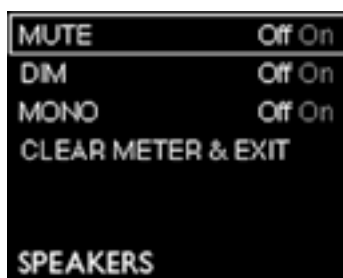
PAD – Forte Control画面上の [Pad] (パッド) ボタンの機能を再現します。

LINK – Forte Control画面上の入力チャンネルの [Link] (リンク) ボタンの機能を再現します。

CLEAR METER & EXIT - Forteディスプレイを元のゲイン/メーターページに戻し、ForteのOLEDディスプレイとForte ControlのGUIの両方の棒グラフメーターのホールド状態をクリアします。

メイン出力モードメニュー

4つのメニューオプションがあります。ロータリーコントロールを使用して指定のオプションをハイライト表示させ、ロータリーコントロールを押して状態を変更します（すべて機能のオン/オフを切り替えるタイプのオプションです）。



メイン出力メニュー

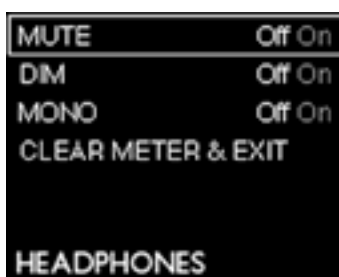
MUTE – Forte Control画面上のメイン出力チャンネルの [Mute] (ミュート) ボタンの機能を再現します。

DIM – Forte Control画面上のメイン出力チャンネルの [Dim] ボタンの機能を再現します。

MONO – Forte Control画面上のメイン出力チャンネルの [Mono] (モノ) ボタンの機能を再現します。

CLEAR METER & EXIT - Forteディスプレイを元のゲイン/メーターページに戻し、棒グラフメーターのホールド状態をクリアします。

ヘッドフォン出力モードメニュー



ヘッドフォンメニュー

このメニューの機能は、メイン出力モードメニューと同一です。

DAWモードメニュー

DAWモードでは、Forteエンコーダーを使用して、ご使用のDAWのさまざまな機能をコントロールできます。

DAWコントロールモードを使用するには、まずDAWアプリケーションを起動し、アプリケーションにフォーカスが置かれている (DAWがアクティブウィンドウになっている) ことを確認します。ForteコントローラーのDAWコントロールアイコンを選択します。DAWコントロールモードは、DAWがアクティブウィンドウになっており、Forteコントローラー上でDAWアイコンが点灯していないと動作しません。

DAWコントロールモードで送信されるデフォルトのコマンドは次のとおりです。

- 再生/停止 (押す)
- 水平ズーム (回す)

押す動作と回す動作に別のコマンドを割り当てることができます。コマンドを割り当てるには、次の手順で行います。

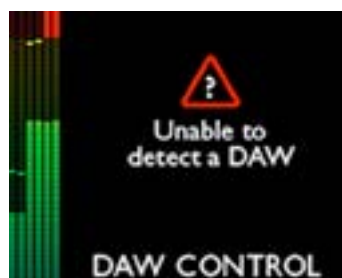
1. Forteハードウェア上のDAWアイコンを押し続け (長めにタッチし)、モードメニューに切り替えます。OLEDに、[ROTATE] (回す) と [PRESS] (押す) の2つの列が表示されます。



2. コントロールノブを使用して、1つ目の列で選択可能なオプションをスクロールします。
3. コントロールノブを押し、オプションを選択します。カーソルが2つ目の列に移ります。上記と同様の操作を行います。
4. DAWアイコンを押し、メニューを閉じます。
5. これで、別のDAWコマンドを使用できるようになります。

DAWコントロールモードが正しく機能するには、DAWのキーボードショートカット機能が有効になっている必要があります。

DAWが検出されない場合、エラーメッセージが表示されます。



対応DAWおよび各DAWに対して選択可能なコマンドの一覧については、次のリンクからご覧ください。

www.focusrite.com/downloads?product=forte

付録

Forte Control – ファクトリーデフォルト設定

入力チャンネル1&2	
ソース	ライン
ゲイン	0dB
48V	オフ
HPF	オフ
パッド	オフ
位相	ノーマル
ステレオリンク	オフ
出力チャンネル – メインおよびヘッドフォン	
レベル	-30dB
Dim	オフ
ミュート	解除
モノ	オフ
デジタルモニターミキサー – スピーカーミックスとヘッドフォンミックス	
入力1&2レベル	0dB
DAW 1 - 4レベル	0dB
パンニング	センター
ミュート	解除
ソロ	オフ
ステレオリンク	入力 – オフ、DAW1&2およびDAW3&4 - オン

パフォーマンス仕様

ADCダイナミックレンジ	117dB (A-weighted)
DACダイナミックレンジ	118dB (A-weighted)
ADC/DACチップセットDNR	120dB (A-weighted)
マイクロフォン入力	
タイプ	RedNetリモートコントロール対応プリアンプ、バランス、 Z_{in} ~1.3k Ω

ゲインレンジ	0から+75dB
最大入力レベル	+12 ± 0.5 dBu@0dBFSゲイン、 $R_s = 150\Omega$ 、パッドなし
最小入力レベル	-63 ± 0.5 dBu@0dBFSゲイン、 $R_s = 150\Omega$ 、パッドなし
SN比	117dB (A-weighted、 $R_s = 150\Omega$)
周波数特性	50Hz~42kHz ±0.1 dB -0.5dB @ 20Hz. ($R_s = 150\Omega$)
THD+N @ -1dBFS	0.0007% (@ 1kHz、+11 dBu入力、最小ゲイン、20Hz – 22kHz)
パッドアッテネーション	10dB
ノイズレベル (EIN)	-128dBu (60dBゲイン、 $R_s = 150\Omega$ 、20Hz – 22kHz)
ファンタム電源	48 V、チャンネルごとに設定可能 (電源アダプター使用時のみ)
ライン入力	
ゲインレンジ	-12~42dB
最大入力レベル	+20 ± 0.5 dBu@0dBFSゲイン、パッドなし
最小入力レベル	-34 ± 0.5 dBu@0dBFSゲイン、パッドなし
SN比	116dB (A-weighted)
周波数特性	20Hz~20kHz ±0.2dB
THD+N @ -1dBFS	<0.003% (@ 1kHz、+19dBu入力、最小ゲイン、20Hz – 22kHz)
インストゥルメント入力	
ゲインレンジ	+14~+68dB
最大入力レベル	+10 ± 0.5 dBu@0dBFSゲイン
最小入力レベル	-44 ± 0.5 dBu@0dBFSゲイン
SN比	111dB (A-weighted)
周波数特性	20Hz~20kHz ±0.2dB
THD+N @ -1dBFS	<0.003% (@ 1kHz、+9dBu入力、最小ゲイン、20Hz – 22kHz)
アナログハイパスフィルター	
コントロール	チャンネルごとに設定可能
特性	12dB/oct、-6dB @ 65 ± 3Hz
メイン出力	
タイプ	電子バランス
周波数特性	20Hz~20kHz ± 0.1dB
SN比	118dB (A-weighted) *
THD+N @ -1dBFS	<0.0008% (@ 1kHz、20Hz – 22kHz)
最大出力レベル	+16 ± 0.5dBu@0dBFS
ヘッドフォン出力	
周波数特性	20Hz~20kHz ± 0.1dB

SN比	116dB (A-weighted) *
THD+N @ -1dBFS	<0.0008% (@ 1kHz、20Hz – 22kHz、10kΩロード)
最大出力レベル	+9dBu (+7dBV) *
最大パワーワット (150Ω)	30mW
最大パワーワット (32Ω)	27mW
出力インピーダンス	<8Ω
ロードインピーダンス	>32Ω
クロストーク	
入力間	>-90dB
出力間	>-90dB
入力から出力	>-90dB
DSP仕様	
クロックジッター	<250ps
対応サンプルレート	44.1、48、88.2、96、176.4、192kHz

*注 - 5V DC電源アダプター使用時

ハードウェアおよび電気仕様

アナログ入力	
接続端子	2 x XLR3F (マイク)、2 x TRS1/4インチ (ライン/インストゥルメント)
マイク/ライン/インストゥルメント切り替え	ソフトウェア経由
アナログ出力	
メイン出力	2 x 1/4インチTRS、電子バランス
ヘッドフォン出力	1 x 1/4インチTRS、ステレオヘッドフォン
その他I/O	
USB	1 x USB 2.0タイプB
DC電源入力	5V @ 1A (付属電源アダプターのみ使用可能)
サイズおよび重量	
幅 x 高さ x 奥行き	115 x 345 x 171 mm (コネクタを除く)
重量	約487g

トラブルシューティング

トラブルシューティングについては、Focusriteアンサーベースをご覧ください。

<http://www.focusrite.com/answerbase> さまざまなトラブルシューティング例に関する記事を掲載しています。

